

2025年7月12日－令和7年度第3回グアム国際日本人学校定例理事会議事録	
時 間：午後5時～午後7時20分 (ChST)	欠席者：伊藤、安居、福士 (オブザーバー)
場 所：グアム国際日本人学校 会議室	議 長：小和野
出席者：権田、時任、小林、許 (議事録上敬称略) (オンライン参加) 小和野、柳澤、武石、渡辺、 木村	記 録：木村

1. 報告事項

1.1 財務・予実採算報告【資料 1.1_予実管理表 参照】 (時任)

- 6月実績の報告があった。
- 収入：幼稚部 (見込 7⇒10 名)、全日 (2 学期以降▲7 名の予定)、学童保育 (見込 \$600⇒\$144)、体験入学・サマーキャンプが見込より微増。予実差異 \$79,012 増
- 支出：人件費 (幼稚部フルタイム変更)、教材費 (英語)、アシスタント (幼稚部) 予実差異 \$44,214 増
- その他：FEMA の PM 費 \$2,340 を 7 月に計上予定
- 期末予測 (学校運営収支 \$27,949、当期損益▲\$72,776、CB 損益 ▲\$16,325)

1.2 プレジデント報告【資料 1.2_プレジデント報告 参照】 (時任)

- 全日制、体験入学 14 名 (\$7,027.50)、サマーキャンプ 24 名 (\$6,675)
- JSL (Japanese as a Second Language) プログラム、全日制在籍生徒のうち、学校が日本語支援を必要と判断した生徒を対象に新設したい。条件は日本語会話クラス、土曜補習授業校にて国語の履修を条件とする (授業料は共に半額)。本プログラムを受講することで全日制課程への入学条件にすることを考えている。従前では、日本語支援の必要な児童生徒に対して、支援員を雇い、対応していた。
 - 日本語クラス、補習校の受入体制 (生徒数増) は整うのか、希望があれば受け入れるオープンなプログラムとするのか。 (小和野)
 - クローズドなプログラムであれば現状で対応可能、体験入学をきっかけに全日製の生徒数が増やせるきっかけとなると考えている。 (時任)
 - 小学部低学年には、在校生の中にも日本語支援の必要な生徒が多い為、オープンプログラムとする場合はモニタリングが必要。授業料半額に対して希望者が増え、補習校の人件費コスト増では本末転倒となる。 (柳澤)
 - 全日製の児童・生徒数を増やすことを目的としていることは、理にかなっており、また、既存のプログラムへの追加参加のため、追加費用は生じないと思われるので、是非進めるべき 学校側が必要ありと判断した子供に対しての条件付きプログラムにしてはどうか。以前は、全日製の児童生徒が補習校の平日開催の算数・数学・書道などの放課後クラスを受講出来た。但し、その際は授業料と傷害

保険を 徴収していた。(武石)

- プログラム新設の方向性は問題ない。どの程度の需要が見込まれるかの試算が必要。(家庭の事情により土曜補習校希望者が多い、低学年児童数が多い等) そのニーズに対してオープン是非を協議してはどうか。(小和野)
- 両校長と受け入れ側の体制や希望者数などを協議して試算する。(時任)
- 支援期限(いつまでサポートが必要かの判断)についても明確なルール作りを検討頂きたい。(許)
- 仕組みとしては現地校の ESL と同様なプログラムとしたい。支援の期限としては、学校側が判断する。(時任)
- 運用開始時期の目標はいつか。(小和野)
- 2 学期から開始したい。(時任)
- 次回の理事会を待たず、試算と制度固めを施したのち、理事メンバーにメールにて報告回覧、及び承諾のプロセスとする。(小和野)
- 日本語会話、出張授業クラスを新設する。1 社目は CA ADVANCE GUAM, Inc. 様。客先の要望に合わせ、授業をカスタマイズして行う。今回は週 1 回、1 時間、15 回、\$550/1 名(教材費・出張費含む)、5 名以上で開催の予定。軌道にのれば、ホテル・小売業などにも展開することを視野に入れられる。
 - 出張費は別途頂くべき。(権田)
 - 学校外(適用事業所外)での活動に対しては、保険や車両費等が別途発生するため、積み上げた方がいいと考えられる。(柳澤)
 - 諸手数料として本パッケージの見積りに記載(\$1,500/年)してはどうか。(武石)
 - 交通費は、通常の授業の際も allowance として支給していない。(時任)
 - 学校での日本語会話クラスは 105 分、本ケースは 60 分で授業料を同額としていることで、移動等で発生する時間・費用の調整弁としている側面もある と理解している。(小和野)
 - 授業時間は短くとも、教員を occupy する時間としては学校での授業と同じと考えられる事と、学校側の都合で移動をさせる事に対しては交通費を支給すべき。(柳澤)
 - 時限としてはいつになる案件か。(小和野)
 - 7 月末には最終 Proposal を出す必要がある。保険と併せて費用を検討し、出張授業を担当する教員からもヒアリングを行い、見積りに盛り込むべき内容を検討する。(時任)
- 補習授業校、8/9 から新学期。修学旅行(3 年に一度、中 1-3 合同)、今後は、全日制と合同参加とする。但し、今年度は全日制的参加者無し、補習校から 10 名参加。関西方面、11/27-30。本来であれば中学部担任が引率するが、今年度は諸事により引率が困難なため、昨年度中学部担任の渡部先生に引率を依頼(引率教員 1 名分の旅費は予算計上済み)。また、緊急事態に備え、最低でも教員 2 名の引率が必要。管理職が引

率するのが望ましいため、今年度は時任が行う予定。

- 幼稚部、BIP（特別支援）実施中。
- 生徒数推移、7月末に幼・全日小中から転出6名確定（8月に全日幼稚部に転入2名予定）。予算比では幼稚部+10名、全日▲5名、補習校▲5名、日本語会話は新学期に向けて生徒募集中。
 - 派遣教員の子が現地校に通う際には、是非、補習校への転入をさせて頂きたい。（武石）
 - 補習校の現在の人数は何名か。（武石）
 - 47人である。（時任）
- 第3回友達 RUN、2026/01/11にUOGで開催予定、学校理事からも1名実行委員会にご参加いただきたい。
 - 参加する。（許）
- FEMA 援助金による修繕、PMとの契約締結（Nickolas氏）。PMにより入札4社を比較し、最終落札業者を決定（LINDEN社）。現調により、屋上防水で既存のシーートの撤去が当初見積に含まれていなかったことが判明、LINDEN社より見積を受領、PMによるReviewで妥当と判断した。契約締結前の最終確認として、再度の現場訪問（最終サイトビジット）を本日実施した。体育館の台風シャッターは費用対効果も考慮のうえ全交換をする必要はないものと判断し、一部のパーツ交換で対応する予定。（許）
- 職員研修制度、個人の方より1万ドルのご寄付を頂いた。その際、教職員の研修制度の新設を強くご希望されたことを受け、研修制度の新設を提案する。（別紙参照）
 - 研修費の貰い逃げ（離職）防止策はあるのか。（権田）
 - 受講時に50%、修了証の受領とともに残りの50%を支払う方法もあり（武石）
 - 縛りの期間（離職出来ない、若しくはその期間に離職した場合には、全額返済）として参考までにI社は5年、O社は10年、K社は2年、H社は50万円以下だと2年（資格取得費用を従業員に貸付し、24ヶ月連続勤務後に返還義務を免除する誓約書を交わす）。
 - 次回の理事会までに検討して報告する。（時任）
- プレジデントのKPI、給与基準表の見直しが含まれている。プレジデント職を含むすべての職種に対し、複数の指標を基にした適正な給与基準の検討を、理事会内で進めたい。原案を作成するにあたり、理事会内にタスクチームを設置したいが、伊藤理事と小林理事にご参加いただきたい。
 - タスクフォースで検証し、理事会で審議することに賛同する。もともと教職員の賃金テーブルには一部の矛盾点もある為、併せて整理して頂きたい。（小和野）
 - 賃金テーブルの矛盾改善については、長きにわたる課題として認識しているが、経営者であるプレジデントを被雇用者と同じテーブルにのせる事には違和感がある。今のプレジデント賃金を決めるにあたっては、他の例を基にして定めている

が、実際は経営者の役務に加え、プレーヤー（園長・教員・講師など）としても従事するなか、額面の絶対値だけで判断され、批判を受けている事を大変懸念している。（武石）

- 自身としては、プレーヤーもしているから今の額面だとは考えていない。経営の責任者である以上、人が雇えなければ、運営に支障をきたす場合には、現場にでるのが当然だと捉えている。（時任）
- 給料基準表にのせたいという意図は、可視化をしたいという事か。（武石）
- その通りである。NPO である以上、Public Information として可視化が必要であり、その為にも具体的な指標を策定する必要がある。（時任）
- JOES の事務長会議でも、NDA を交わすなどして、他校（シドニー等）からヒアリングも模索したい。（武石）
- 指標 として日本/グアム/世界の在外教育施設等 の事例も参考にテーブルを策定したい。（時任）
- 学校の規模感も参考の一つにするべき。（権田）
- 本来は経営者の給料テーブルは存在しない。その上で、様々な指標を基に周囲が納得する給与を可視化することは大変難しい作業。経営者としては、規模の大小はあまり関係なく、仕事の絶対量は変わらない。（柳澤）
- JOES 事務長会議、7/27-29。JIAG 学校理事会からは、時任プレジデントとオマーン補習授業校を代表して武石理事が参加する予定、全日制部門と補習校部門の 2 つのグループに分かれて進行されるため、時任プレジデントは全日制部門、武石理事は補習校部門に参加し、後ほど情報を共有する。

2. 討議・審議事項

2.1 2024 年度 3 月期決算報告【資料 2.1_FY24 監査報告 参照】（小林）

- 小林理事より財務諸表は概ね適正に表示されていると報告された。
- 監査による差異調整事項
 1. 期末時点の cash 残高
 2. 期末時点の売却した備品（文具）の仕訳（月次棚卸管理すれば年度末調整で可）
 3. 前払い保険料の費用の計上
 4. FY2023 の減価償却の科目違いを FY2024 期首で残高反映
 5. 当期の減価償却費の仕訳
 6. 期末時点での未払金残高で、当該年度中に既支払分を戻し（二重計上の解消）
 7. 期末時点での未払金の仕訳計上
 8. 期末時点での賞与を未払計上仕訳
 9. 期末時点での前受け金（2024 年実施の全日修学旅行）を収入として仕訳
 10. 期末時点での体育館ローンの長期・短期を適切に表示仕訳
- コメントとしては、① 固定資産の棚卸を実施していない、現実的に難しい場合は簿価

が残っているものなど、優先度の高いものだけでも実施するべき。② 固定資産台帳が更新されていない。当期の購入、現物寄付、廃棄、棚卸結果を基に、紛失ロスなどを反映すべき。

- PL 上では、日本政府からの補助金が\$150,000 入っている、過去には未収計上したり、受取時点で収入にしたりとバラつきがあったが、補助金の性質上、今後は受取った時点での計上で統一していく方が適正と判断する。Net Income を昨年と比較すると、この補助金\$150,000 を差し引いても約\$60,000 も改善している。これは時任プレジデントの様々な営業努力による結果と考えられる。
- 昨年より新聞広告上での財務諸表の開示義務は無くなり、税務申告と一緒に財務諸表を税務署に提出することで、税務署の Web サイトに掲載されるようになった。
- 審議事項採決 → 全会一致で可決された。(小和野)

2.2 JIAG BS/PL (詳細版) の日本人会法人会員 (BoH) へ開示について (権田・小和野)

- グアム日本人会 (以下、JCG) 法人会員である Bank of Hawaii (以下、BoH) より、JCG 主催の各種イベント (祭、チャリティゴルフ etc) への主要スポンサーとして、JIAG の財務分析するために過去複数年の JIAG 財務諸表を開示してほしい (公告されているものより詳細なもの) との要求が JCG 宛 (2025.6.30 付) に寄せられた。権限表で定められていない審議事項であるが、JCG 法人会員である BoH に対して、守秘義務契約に準じる範囲内で、過去 5 年程度の詳細な JIAG 財務諸表 (BS/PL) を開示することについて、審議、採択をいたしたい。
 - 日本人会と学校は財務上の紐づけがない為、日本人会への要求に対して学校が開示する必要性はない。一方で、NPO であること、日頃から日本人会の活動に理解と協力を頂いている企業様に対して、個別対応で開示することは問題ないと考え。学校 NPO 法人として以前から新聞公告を行っていたので、これらの数字を開示することは問題ない。(武石)
 - 中身については、個人情報や銀行からの借入額はコンプライアンス上、黒塗りで開示した方がよいと考える。(小和野)
 - BS/PL については、学校という公共性のあるものなので、そのまま開示して問題ないが、個人情報保護の観点で、児童生徒名や授業料支払状況、教職員の給与などが記載されている総勘定元帳 (GL) は注意すべき。(渡辺)
 - 他の日本人会会員 (Yamanoi Co.) からも開示依頼がある。(権田)
 - BS/PL をベースとして、個別の借入額や個人情報が判断されるなど守秘義務契約に抵触する内容は黒塗りとして開示してはどうか。(小和野)
- 審議事項採決 → 全会一致で可決された (小和野)

3 その他

3.1 PTA (全日制) 報告 (柳澤)

- 運動会の保護者アンケートを回収し、教頭と共有したところ。次回の理事会で内容を報告する。

3.2 PTA（補習校）報告（安居）

- PTA 会報誌「かえん樹」を発行した。
- 補習校 PTA オリジナル T シャツの販売を開始した。

3.3 JIAG 理事会へのオブザーバーの参加について（権田・小和野）

- 2025 年度に入ってから、複数のグアム日本人会（以下、JCG）会員より、現在の JIAG 理事会の運営に関して「日本人会の関与が薄いのでは」「理事会運営や決裁プロセスが不透明なのでは」「JIAG 教職員の声が届いていないのでは」といったご意見や、JIAG 理事会へ意見や提案を具申する機関（諮問委員会）の設置についての要望が、JCG 理事会へ寄せられた。
- JIAG 理事会の構成、情報開示の手法に問題はないかレビューを行うとともに、より教育現場や JCG 会員、父兄の声が JIAG 理事会に届くような仕組みづくりを行っていく。現在は JIAG 理事会や日本人会の議事録が主な情報発信手段ではあったが、これのみでは十分とは言えないため、まずはコミュニケーションや相互理解の深化を通じたより良い学校運営を目的に、課題認識を持つ JCG 会員や JIAG 教職員が JIAG 理事会にオブザーバーとして参加していただくことから始めたい。
- オブザーバールール（案）としては、JIAG 理事会へオブザーバーとして参加いただき、コミュニケーションや相互理解の深化を通じたより良い学校運営への協力体制を構築すること。
- 参加資格は、日本人会理事長、教育部長を兼務する JIAG 理事が以下から選任し、ボランティアとして参加いただく（JCG にオブザーバー参加のお申し出のあった JCG 会員、主には既にお申し出いただいている方）。日本人会下部委員会として JIAG への提言を行う諮問委員会を設置することが検討されている。JIAG 教職員（全日制校長、教頭など）。
- 参加方法は、原則、JIAG 会議室でのオンサイト参加。
- 人数は最大 5 名程度。
- 時期は第 4 回 JIAG 理事会（9/13）～終期末定。
- ルール ① 事前に守秘義務契約の手交を行い、それを遵守すること② スムーズな議事進行に協力すること③ 意見や質問は、それが JIAG 理事会議長により認められた場合、あるいは JIAG 理事会議長、その他理事メンバーより求められた場合に行うこと④ 互いを尊重し、配慮した発言、態度を心がけること
 - 日本人会の学校に関与することは、明らかに今までは無かったのに、なぜ急に注目を浴びるようになったのか。（武石）
 - プレジデントの給与であると考えられることと、学校名を変更し、学校運営方針

を日本人家庭の子供を対象としていた事を国際学校として方向転換したことの裏返しではないかと考えられる。ただ、名称が諮問委員会といわれると悪いことをした事を訴求される印象を受ける。（時任）

- 学校の理事会は開かれるべきなので賛成、但しオブザーバーなので、会議上で自由に意見するのではなく、教育部に意見は進言して頂きたい。その上で日本人会が学校に対してどうしていくべきかを示すべき。あくまでも諮問委員会は日本人会（教育部）の下部組織であるべき。加えて、現在の学校理事メンバー構成までの経緯も理解されたうえであれば賛成。過去には校長自ら教職員に対して理事会の決定事項を連絡しない、理事会の求めに応じないとの指示をしていた校長もいた歴史も踏まえて、今のような体制になっている。（渡辺）
- オブザーバーだから意見するなというのは反対。意見をするときには、あくまで議長が指名してからであり、いつでも意見出来るわけではない。その意見を基に審議が進行しなければ、問題ないと判断する。（小和野）
- いまの教育部長が小和野さんだから、仕切り（コントロール）ができるとおっしゃるが、次の教育部長の理解と関りが中途半端だと破綻する。（柳澤）
- 日本人会を通じて、広く参加者を募るのが公正ではないか。また、学校運営は各学校長が主体となって行っており、理事会は経営面を主に議論する組織である。もし、諮問委員会が運営面（教育）に対して討議したいのであれば、他に場所を設ける方が理にかなう。（許）
- 日本人会の理事会の中でも、オブザーバーを募る予定。ただし、人数が多くなればなるほど、会議時間と事案が増える為、ある程度の人数調整は必要に思う。（小和野）
- 教職員の参加は、必ずしも参加意思はないが、誰から依頼するか。（時任）
- 校長か教頭のどちらかに参加して頂いた方がよい、依頼はプレジデントまたは新しい理事長からの依頼とする。（小和野）
- 諮問委員会を設けて何をしたいのか不明。（武石）
- 恐らく、周囲から十分な理解が得られてない案件を集めて、正式な形で学校理事会に討議させたいのではなかろうか。（小和野）
- 教職員の子供が現地校へ転出する事に対して、いまの学校の運営がおかしいのではと周囲が短絡的に結び付けてしまうなど、本来そこで協議されていること等が伝わっていない、誤解されている事も背景としてはあるのではないか。（権田）
- 会議上、議題に対してオブザーバーから自由な発言は受け付けず、理事長または教育部長から指名して意見を述べて頂きたい。（渡辺）
- 会議上での発言については、議長により認められた場合、または理事メンバーから意見を求められた場合のみとしている。（小和野）
- 今後は保護者に対しても理事会の透明性・公開性を高めて行ければと思う。（渡辺）

3.4 退任の挨拶（権田）

- 任満了に伴い、理事長退任のご挨拶をいただいた。

4 次回開催

2025年度第4回JIAG理事会 9月13日（土）17:00～